

絶滅危惧類 クサリゴケ科

ミヤジマヒメゴヘイゴケ

Archilejeunea planifolia (Horik.) Mizut.

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

【形態】 植物体は小さく、茎の長さは5～10mm程度。樹幹に着生するが、肉眼では確認が難しい。葉は折りたたみ型で腹片は背片の約1/2長。腹片の歯は2～4細胞。腹葉は倒卵形、円頭全縁。雌雄異株。

【分布】 福島県南部から屋久島まで。日本特産。

【県内の分布、生育状況】 原町市が唯一の産地。近畿地方から九州にかけて分布している暖地系の苔で、東北地方に産することは大変珍しい。原町市の産地は東北唯一の産地であり北限である。

【生育に影響を与えている要因】 森林伐採、ダム建設

【特記事項】 生育地の森林の保護が望ましい。

【主要文献】

湯澤陽一．2000．原町市新田川溪谷の苔類．フロラ福島18：17-26．

絶滅危惧類 クサリゴケ科

写真ページ

カビゴケ

Leptolejeunea elliptica (Lehm. et Lindenb.) Schiffn.

全国カテゴリー；絶滅危惧類

【選定根拠】 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 茎は匍い、体長5～10mm。葉の背片は斜めに開出し、長楕円形、全縁で垂鋭頭、5～10個の円形で大きな眼点細胞を散在する。腹片は背片の2/5長。腹葉は離在し独特な鬼面状、2裂し、裂片は3～4の単細胞列。雌雄同株。花被は倒卵形、5褶。

【分布】 福島県以南の暖地。アフリカを除く熱帯、亜熱帯に分布。

【県内の分布、生育状況】 福島県双葉郡木戸川溪谷が東北地方唯一の産地。熱帯多雨林を特徴づける葉上苔で、東北地方に産することは大変珍しく貴重で北限種である。

【生育に影響を与えている要因】 森林伐採、ダム建設

【特記事項】 滝をもつ 字溪谷と溪谷林の保護が本種の生育に不可欠であり、その保護が望ましい。

【主要文献】

湯澤陽一．1979．福島県産のクサリゴケ科について．日本蘇苔類学会会報．2(8)：105-107．

